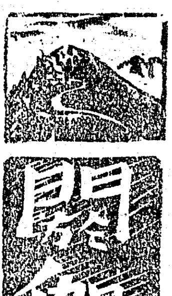
二十六日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵　稅 金十五錢
□一　部　賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□雜報欄 金九十錢
□場所指定一行 金一圓増
□電話（平） 七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人 森合英



官吏の責任問題

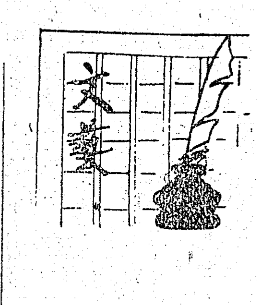
武藏山人

砂糖の不正事件は遂に全縣下にび漫し、同時に商工課の役人に疑惑の眼が向けられて來たことは遺憾である。

經濟統制が强化され、從つて個人的な行動を認められない今日では、組合組織に依つて配給上の圓滑を期することは當然の歸結であり、組合員が直轄官廳並に組合統率の理事長（組合長）乃至役員の任務に信頼する以外に何等の力もないのである。然るに理事長などが私益を前提として配給案を樹て、不正を行つてゐたとすれば、平組合員たる者の業務は暗澹たるものである。

此處に於て監督官吏の嚴正な取締りが要望されるのである。然るに某東京紙上に縣商工課の意見として『實績問題は中央の査定に成り縣としては預り知らぬ、不正ありとせば中央だらう』と責任を回避するも甚しい言が述べられてゐた。商工課の言は事實を述べてゐるとしても、全縣民を首肯せしむることが出來るだらうか？恐らくは不可能であらう。斯うした言葉の爲に多くの場合疑惑を生むのだと思ふ。

監督官廳である以上、司法權の發動は別として、組合の役員に不正の行はれないやう常に監査を嚴重にし、業者に不安を抱かせないやうにするやう責任を明かに善處を希むものである。



現代のわが國に於ける計畫的文化形成が果して正しいその軌道に乘り出してゐるか否か（木村素衛）

磐城文化聯盟の事

南圭十郎

（三）

▲組織

さて磐城文化聯盟が出來るとすれば組織の方法にお願ひがあります。それはこの會にだけは會長、副會長、顧問等と云ふわづらはしい役柄はなるべく設けてくれるなと云ふ事です。どうか全部平會員としてやつて行きたい。特別會員も名譽會員も不必要です、全部平等の立場でなければ勉强や眞の協力は出來るものではありません。

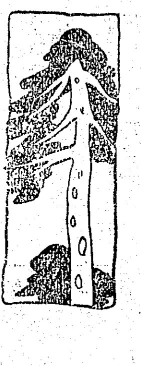
次に聯盟が活動するには中心になつて働く者が必要ですそれは事務局又は事務部として決して「幹部」とか「委員」等云ふ言葉を使つてはなりません。事務部は必要に應じて連絡部、事業部又は通信部等の小部門に分けて働き易い樣にするのが良いでせう。

最初は發起人會等云ふ方法になるでせうが聯盟が健全に生れ出づる爲には之を取り上げて生命を吹込む産婆役が必要です。産婆役は磐城文化聯盟といふ赤ん坊さへ生れる事になれば集まつた發起人の中から出て來ませう。

▲話のむすび

秋田縣の角館町、山形市、姫路市、高岡市、八王子市、廣島市、兵庫縣有年村等に文化聯盟が出來ました。九州には九縣の聯合團体が出來、新潟縣には縣全体の文化會が出來ました。今は兎や角と個人的な論議を盡すべき時ではありません。みんな明るみへ出て愛する國土のため磐城の土のために働からうではありませんか。

★★★★★



野良

佐分利晃

蒼い大地燃える心
野に出で鍬柄を握る
綠の大地今日も碧い
ほそぼそと流れた一條の香

春の聲

（城山）　李史

輕らかに　歩む我が靴の下に
さゝやく　聲あり
そは誰
心遣　口笛
その溶け行く　岡の彼方に
應ふる　聲あり
そは誰
青空に　ひゞけと
高鳴る我が胸の血潮
一つ浮ぶ圓き白雲に歌ふ聲あり
そは誰
春の聲なり

連續講談

異説赤穂浪士

（157）

桃川若燕　講
城木喬　畫

廓問答

『堀部の相方は……然うだな櫻木が好からう、年齢は二十三四、瓜實顔の美人でな、大層堀部を慕つてゐたと……』

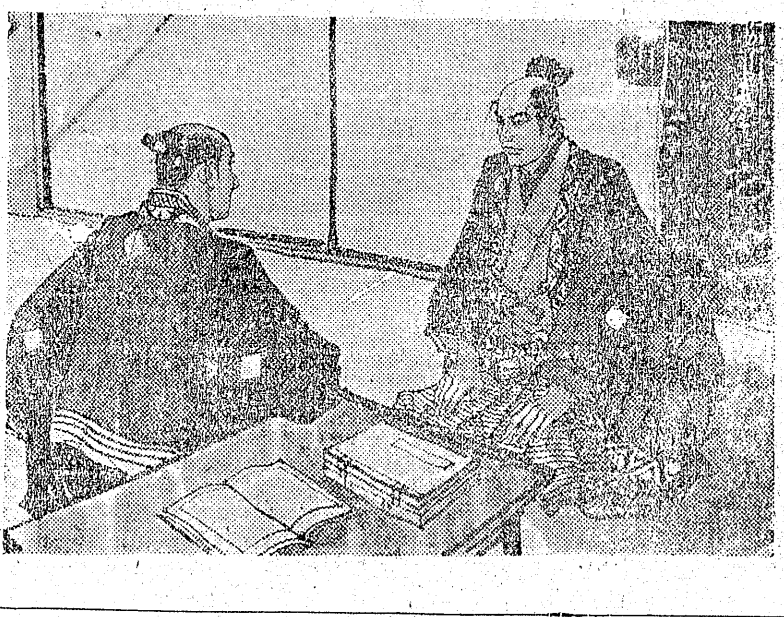
『これは怪しからん』

『イヤ／＼然う云はぬといかん』

『ハイ、貴公の相方は小櫻と云つて年は十九か廿位、それに男藝者、所謂幇間だな、檢番は藝者は二組、これは三人五人と云ふ半端な數はない、一組二人二組四人と定まつてゐる。馴染金は五兩出した、それで大陽氣に遊んだと云ひなさい』

『心得ました』

堀部安兵衛に教へられた通り、横川勘平白扇に記してそれを懐にその日は堀部宅に泊つて翌日新錢座のをぢ芹澤のところへ歸つて來た。



『オ、お歸りかい。昨夜は何處へ行きなすつた』

『ハイ朋友と會ひましたので一夜吉原で遊興を致しました』

『ナントお言ひだい。眞逆にそんな遊びはしまいと思つたのに……』

『コレ／＼婆アさん、お前の樣につべこべ云ふものではない。勘平、誰と行つた』

『ハイ久し振りで堀部と會ひましたので』

『ウーム堀部か。彼れには二三度會つた事もあるが酒も强いし、遊びも强いな、何處へ行つた』

『ハア、エ、その衣紋坂から五十軒を通りエ、山口巴と申します茶屋へ參りました』

『ウム／＼』

『ソレから送られて行つた先きは玉屋山三郎といふ……』

『オ、玉屋へ參つたか』

『ハイ堀部の相方は櫻木と申しまして年は……』

『櫻木ならば二十二か三にならう。乃公もお役柄一二度玉屋へ參つた事がある。却々美人でな。其方は誰を買つた』

『手前のは小櫻と申します』

『ナニ小櫻だと、それは不思議だ。乃公がアノ店で遊んだとき妹女郎として出たのが小櫻だ。まだ店に出たばかりで誠に愛くるしい女だが、難を云へば眼尻に黒子のある事だ。眼尻の黒子は俗に泣き黒子と云つて好ましくない。それ故醫者に頼んで拔いてもらつたがいゝと教へたことがある。小櫻は黒子を取つたかな』

『ハツ……』

と云つたが、サア勘平、弱つた、

白扇には黒子の事が書いてない。

『エ、ソノ黒子は拔いたと見えて見當りませんでした』

『さうか堀部が一緒ならば藝者を呼んだか』

『藝者は二組呼びました。二組と申しますと四人の事でアノ廓は三人五人と云ふ半端な數はございません』

『そんな事は其方に云はれずとも存じてゐる……』

「馴染金は五兩遣しました』

『五兩か、五兩やれば別に恥かしい事はないが成る可くは十兩やつてもらひたかつたな、あの二階におよしと云ふ遣手婆さんがゐたがどうした。却々の氣散じ者だつたが居つたかな』

『ハッ』

勘平が驚いた。これも原稿にない。

『その老婆も見たやうでございます」

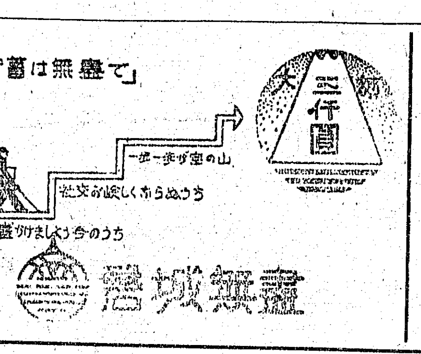
『ウムこの遣手などといふものは別に心付けしておかぬと不都合な場合もあるがどうぢやどの位祝儀をやつたな』

『ハア遣手の祝儀……エ、それは堀部の申しますには馴染金が五兩では少々少ない』

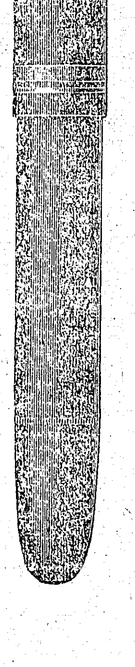
『イヤ少くはない。一通りであるけれども願はくば十兩やつてもらひたかつた』

『イエそれ故遣手に祝儀を余計遣さうと申して、これには金十兩遣はしました』

肉の御用命は
三二三屋
牛も豚も優良品の自慢


「貯蓄は無盡で」
一歩一歩が宝の山
社交が厳しくならぬうち
無盡かけましよう今のうち
磐城無盡

萬年筆は專門店へ
㊣2・00以上
マルオカ萬年筆本舗
岡萬年筆專門店
平市中央通り



國產ミシン界の王
アサヒミシン
精研舍ミシン
ニッポンミシン
迷はず迷はされず國產隨一
音も具合も調子も滿點
シンガーに優る共劣らざる機構
厚物、薄物、和服、洋服裁縫自在
販賣代理店
シンガーミシン商會
平市驛前田町

ヒマーチ
五十錠入 一、一〇
百錠入 二、〇〇
徳用罐 五、〇〇
特約店 平市五丁目
山野邊藥局

大小の御宴會にホール
御家族の御同伴に御座敷
いつも材料を吟味して居ります
平市四丁目
マルトモ食堂
（電話一二三番）

防空暗幕
天幕・シート
防水マント
カーテン・敷物
防水加工
製作販賣
設計と施工
敷島屋商店
平市六丁目六
電呼四八三番

度量衡
モノサシ・升・秤
計量器
体温器・寒暖計
ハカリの取締垂糸を修繕致します
吸入用酸素純度99%
關内藥局
平四丁目　電話四〇番

弊店のクリーニングが何故良く出來るか？　他店では絶對に眞似の出來ない純ドライクリーニング機械により舶來ベンヂンソープを使用し、仕上りは弊店獨特の内外二十四ヶ國の特許ある優秀蒸氣仕上機械を使用するからです、
純毛類の永持には
白榮舍のクリーニング
正直な仕事と…優秀な技術を…お望みのお方は
設備を誇る
白榮舍ランドリー
平・仲田町

シボレー、トヨタ型
蓄電池（參拾九圓）
在庫品豊富
修繕は特に勉强
古川・ジエス・ナショナル・蓄電池代理店
東工業株式會社定置式木炭瓦斯發生機代理店
營業科目
蓄電池、高壓發電機、
自動車、船舶電機一般
充電機、礦山用エンジン
發電機、
平市紺屋町
久野電機
電話七二一番
振替東京一五一〇四番

△入院隨時▽
エツキス光線科
外科、内臟外科
院長　安齋　徹
安齋醫院
平市田町　電五四七

外科、内臟外科、
肛門病、皮黴科、
泌尿生殖器科　專門
〔看護婦及見習看護婦募集〕
白土醫院
平市鎌田町　電二七九

内臟外科
整形外科
▽入院隨時△
内木外科醫院
醫學博士　内木宗八
平市大町　電話七九番

耳鼻科
咽喉科
▽入院應需△
増田醫院
醫學博士　増田　之
平市紺屋町　電六五一

平市紺屋町
吉田眼科醫院
醫學士　吉田久雄
電話六八番

外科（内臟、整形）
肛門科、性病科
レントゲン科
上田外科
院長　上田耕作
平市南町　電一二九

産科、婦人科
〔見習看護婦入用〕
井坂醫院
平市田町　電五五九

耳鼻科
咽喉科　專門
〔入院隨意、病室完備〕
大和田醫院
平市南町六　電話一七〇番

眼科專門
眼鏡檢定
重田眼科醫院
平驛前

内臟外科
整形外科
レントゲン科
松村外科
松村醫院外科部（平市南町）
醫學博士　松村亨

皮膚科
泌尿器科
性病科
江尻醫院
平市田町　電六九一
江尻伊三郎

少年産業戰士

縣社に祈願・壯行會に臨む

三百餘名今晩出發

平國民職業指導所では既報の如く今春校門を巣立つた少年産業戰士を第一線へ送り込むため大童の活動をつゞけつゝあるが、鐵道側でも時局下の重要産業に協力する建前からこれ等の少年部隊を送り込むため特別臨時列車を運轉、今二十六日午後十時二十五分平發臨時で第一回分三百余名が出發することに成つた

一行は今晩午後六時平市公會堂前に集合、立澤指導所長に引卒されて縣社子鍬倉神社に參拜、成功を祈願、引きつづき公會堂で壯行會を開き、立澤所長一同の前途を祝福激勵の言葉を贈り平第一校ブラスバンド特別出演して慰問の演奏や活動寫眞の公開などあつて時間を過し、定刻十時二十五分出發する

第一回の少年隊は何れも東京神奈川、埼玉方面の重工業工場に就職するもので、平指導所員が附添うて東京まで臨時列車で行き、上野から分散する豫定である

就職率の悪かつた今年の卒業生

但し、縣內の斡旋はこれから

今春の卒業兒童は約四千名でこの內平指導所の斡旋で就職決定したもの四分の一に當る一千余名に過ぎず、前年に比較すると就職率は相當低下してゐる

少年の就職率低下は濱方面や炭鑛の好景氣が相當影響し加ふるに人の雇傭が自由にならぬ爲、他へ出さず自家手傳ひにする家庭が多く成つたことにも起因してゐる模様である

然し現在までに決定した兒童は殆んど縣外へ向けられて居り、縣內の斡旋はこれからだから指導所でも第二段の活動に入ることに成つた、右について立澤所長は語る

重要工業から先に採用することになる爲どうしても縣外關係が先決に成る、縣內の就職斡旋はこれから力を注ぐことになるのですが濱の景氣が素晴らしいのでこの方面の動きが尠なく、一方食糧增産も重要問題であるから農村の子弟を無理に産業界へ送ることも出來ず痛しかゆしと云ふところです

小名濱測候所の

街頭進出

資源開發に氣象講習

小名濱測候所では管內沿岸の漁業關係主要地に氣象講話會を次の日割で開くが講師は猪狩測候所長で講話課目は本縣の氣象事業の內容で暴風の豫知法、海難防止、海洋觀測、寒候地救濟、防空施設、自然資源の開發、生産擴充等である

△四月四日相馬郡地村、△五日同郡原釜△五日中村町△六日原の町△六日請戸村△七日双葉郡長塚村

地方指導者講習に

平商報隊中堅青年參加

平商業報國隊では二十七日から五日間久の濱町波立藥師堂に開かれる皇運扶翼會の眞體制指導者講習會參加について二十五日事務局森川氏宅に例會を開いて協議の結果、代表者として左の二氏受講することに決定した

平市一丁目　武田金一君

仝　新川町　鈴木文雄君

兩君とも市商報隊の中堅青年で殊に鈴木君は過般京都市の一燈園修養會に參加した模範青年で地方推進隊員として今回の講習參加は最も適してゐる青年である

土木監督所異動

須藤平所長は河港課榮轉

二十五日縣より發表された土木關係異動のうち地方關係は次の如く發表今次の異動は相當廣範圍に亘つてゐる

平土木監督所長須藤淸藏

縣河港課へ

同所會計　大沼正幸

三春監督所へ

任同（小名濱駐在）岡忠一

任平所長（郡山）君島與一

任江名築港所長桒花勝之助

任平勤務（福島）竹谷薰

同（石川）小齋要三郎

同（監理課）矢部定一

夏井修築事務所坂本義雄

郡山へ

在任三年

須藤所長の殘した功績

今回の土木關係異動で河港課へ榮轉した須藤平所長は在任滿三ヶ年に亘り物資難時代に郡內の道路、河港等の改修に殘した功績は相當多い、尙大沼全會計も滿二ヶ年目を迎へての轉任である

小名濱出所長の後任は當分缺員のまゝで置き、新任君島所長の着任後決定する模様である

公立中等校巡り【三】

出身人物論

先づ〃軍人と政治家〃から

磐城中學校の卷（七）

【軍人と政治家】

磐中はどんな人物を世に送つてゐるか。時局から先づ軍人方面から大佐級以上を拾つて見よう。第一回の猪瀨乙彦氏は海軍大佐だ、先頃迄軍人會館の調査課にゐた綴の出身

永戸村合戸出身の會田常次氏は仙台醫專を出て海軍々醫となり、軍醫少將迄行つた。今は横濱で開業してゐる。鈴木芳之助氏は平市北目の人、同じく仙台醫專を出て陸軍軍醫大佐となつた。學位も持つてゐる。仙台で開業してゐる。第二回には吉田織輔海軍大佐がある。今は鎌倉にゆう〳〵余生を送つてゐる。第三回の鈴木春五郎海軍大佐は高坂の生れ、現在は浦賀船渠の技師である。第四回には入遠野出身の佐川靜三郎陸軍大佐、平市鎌田町出身の鈴木謙吉陸軍大佐、若生淸陸軍少將、角田貞雄海軍大佐等がある。明治卅七年卒業だから軍人熱が盛んだつたのだらう。佐川大佐は先般應召から歸還したばかりである。若生少將、若生少將は靜岡の人で平市二丁目今の中野洋品店の所にお父さんと住んでゐて幼年學校から陸士へといふ順で進んでゐる。第五回には湯長谷出身の遠藤眞一陸軍大佐、東白河郡出身の鈴木幸三海軍大佐がある。鈴木大佐は今旅順市に海軍の囑託となつて働いてゐる。第六回には今泉吉貞陸軍少將があり、佐々木猪三郎海軍機關大佐がある。今泉氏は渡邊村出身で舊姓鈴木、陸大を出てゐる。今は東京で私立の學校長をやつてゐるといふ。佐々木氏は平つ子で五丁目の人、今は軍需工業に關係してゐる。第九回には軍人方面の磐中のホープ高木武雄海軍少將がある、玉山の出身、現役の少將閣下で海軍々令部の課長として洋々たる前途を有してゐる海軍大學出身の吉田英三中佐（十九回）陸軍大學在學中の渡邊繁夫大尉（二五回）の前途もまた期待すべきものがあらう。吉田中佐は泉村出身、現に某要職にあり、渡邊大尉は湯本町の出身である。陸大出の若松七郎中佐（十八回）が昭和十三年に病に倒れたことは惜しいことであつた。

地方官としての目ぼしい所を拾つて見ると第一回の金古久次氏がある。平市才槌小路出身の工學士で內務省土木局の高等官一等の勅任技師に迄なつたが今は退職して支那に行つてゐる。現在の所では第二十回の大和田彌一氏が岩手縣地方課長として未來を約束されてゐる。大和田氏は夏井村の出身、弘高から京大を出て高文に合格關東州警察部長をしてゐたのが先年の地方官異動で內地に歸つて來たもの

政治界に進出してゐる卒業生は第二回卒業生の代議士前陸軍參與官比佐昌平氏、第十一回卒業の貴族院議員諸橋久太郎氏は先づ第一にあげねばならんだらう。二人ともに早大の出身である。縣會議員としては矢內淸次（一回）木村守江（十八回）赤津庄兵衞（十二回）關內正一（十六回）小野晋平（六回）の諸氏がある。元縣會議員として植田の古川傳一（五回）赤井の草野順平（五回）の二氏がある。更らに平市會議員として松本德一（九回）藤田榮助（十四回）永山勇吉（十五回）關內正一（十六回）多田井笑次郎（十七回）の五氏がある。第一回卒業生の堀合由巳氏は法學士で鄕里盛岡に歸つて市會議員、市會議長となり昭和四年盛岡市長に就任したが不幸在任三ヶ月でチブスに患つて病歿してしまつた。

傳染病豫防に

保菌檢査

平市が萬全策を執る

平市では二十六日十五年度中の腸チフス、パラチフス發生患者四十名に對し保菌檢査を執行豫防法に萬全を期し保菌の疑ひあるものは徹底的に治癒せしむることに成つた

俳句の會

〃野アザミ〃生る

活潑な活動に期待

平市內の俳句會は平郵便局內に『俳黎會』があつたに過ぎない爲今回本誌文藝欄に圓熟せる豐かな詩情を盛つた詩を發表してゐる佐分利晃氏が「野アザミ」會といふ俳句の會を作り先頃第一回の集りを開いた。當日の俳句は追つて本誌にも發表の豫定であるが渡邊何鳴氏も本誌に據つて活潑な動きを見せてゐることでもあり、磐城の文運漸くめでたからんとするこの風潮を祝福したいと思ふ

なほ「野アザミ」會は何人の入會も歡迎するよし。申込は平市仲町二伊藤方佐分利晃宛のこと

平第五校の

建設委員會

平市では二十六日午後一時から市會議事堂に第五小學校建設委員會を開き新年度に建設する同校の設計、土地買收案等について協議した

吉田軍醫中佐

北支の野戰病院で散華

武勳を偲ぶ留守宅

平市材木町居住吉田平一中佐は北支〇〇野戰病院で戰病死した旨二十五日市役所へ公電があつた、故吉田中佐は內鄕村小島の生れ、磐中第六回卒業生で仙台醫專卒業後、陸軍々醫となり、累進して中佐となり昭和十一年宇都宮野砲聯隊附を最後に現役を退き歸鄕錦町の吳羽人絹診療所に勤務中、十四年〇月〇日應召、若松陸軍病院に暫らく勤務後中支の前線に出征されたものである、留守宅はハナ子未亡人（四六）と二高理科三年在學中の長男尙君（二一）次男次郎君（一八）三男磐中四年の治君（一六）四男尋五年の昌生君（一一）長女尋二年の瑞子さん（九）の六人家族で何れも秀才ぞろひ、次男次郎君は今朝多賀高工合格の通知を受けたばかりであつた、材木町の自宅に御遺族を訪ねると奥の間に故人の寫眞と勳章、徽章など飾り香煙縷々たる中に燈明が寂しく瞬いてゐた、ハナ子未亡人は次のやうにつゝましく語られた

あちらにまゐりましてからは覺悟はして居りました。最後のたよりは二月で『元氣で奉公してゐる、子供のことを宜しく頼む』とあつただけの簡單なものでした

主人はこちらに來てからは小鳥なんかを飼つて面倒を見て居りました

滿三年ぶりで

隔離病舍閉鎖

傳染病撲滅に市民へ警告

平市內の傳染病は此處數年來殆んど絶え間無く猖獗を極めてゐたが、市隔離病舍に收容中の傳染病患者も全部退院、昭和十四年三月以來滿三ヶ年ぶりで漸やく閉鎖した、今年にはいつてから約二ヶ月半の入院患者は

△チフス、五名△パラチフス一名△赤痢、二名△疫痢二名△猖紅熱四名でうち死亡は疫痢患者一名である

市ではこの閉鎖を機に傳染病の根絶を期すべく努めてゐるが春先きから初夏へかけて例年小兒の疫痢が猖獗するので各種飲料水並に生ものには特に注意して今後隔離病舍を再開しないやう市民に警告を發し、傳染病の撲滅を期することに成つた

蠶絲界の功績で

有功章拜受

磐城片倉所長今井氏の光榮

四月十一日東京蠶絲會館に開かれる第三十六回大日本蠶絲會總會に於て、磐城片倉製絲工場長今井岩根氏は、閑院總裁宮殿下から有功章を拜受することに決定、同氏は總會を前に感激してゐる

有功章拜受の今井氏は昭和八年現工場庶務部長として着任以來素晴らしい實績を擧げ、同十二年工場長に昇進し、爾來業界に盡す處大きく、昨年は功績章を授與今回再びこの榮譽を受けることに成つたもので五百餘名の従業員も共に感激してゐる

片倉製絲の

蠶絲祭

優良組合表彰等行ふ

片倉磐城製絲工場では二十八日恒例の蚕絲祭を擧行、當日同工場青年學校の修了式並に優良組合員表彰、同工場健康保險組合被保險者表彰等を併せて行ふことに成つた

〃闇〃防止の協議

常會を通じ法規を徹底

平署では〃闇〃防止週間第三日目の今二十六日午前九時から同署管內經濟生活相談所委員會を會議室に招集、劈頭久和署長から國家總動員法、臨時處置令の强化に伴ふ法規上の説明があつた

同委員會では〃闇〃防止の方法を各方面から考察し、結局法規が周知されないことが原因して居り〃闇〃の撲滅は法規の徹底にありと云ふことに一決、今後は部落常會毎に署員並に相談委員が努めて出席し法規の説明をすることに成つた

尚午後一時からは引續いて市內關係者の懇談會があつた

磐中卒業生の

横濱高工パス

小松、堀兩君入學許可

磐城中學校卒業生中横濱高等工業學校に入學を許可されたもの左の二名が判明した

小松崎富夫、堀重好

蠶業會議

平蠶業取締支所長は二十八日から二日間縣下支所長會議へ出席のため出福する

農村婦人活動

懇談會開く

縣主催銃後農村婦人團体活動懇談會は今二十六日午前九時から平市公會堂に開催、縣から農林主事補根本キミ女史が臨席、郡內各町村國婦、愛婦女子青年幹部約百六十名が參加

△農業增産協力に關する件

△生活刷新に關する件

を俎上に懇談したが收獲期に於ける婦人團体の〃農村協力部隊〃の編成、勤勞奉仕の團体活動など增産に對する婦人團体の協力運動について縣の指示事項があつた

献金寄附

兒童の赤誠

昨二十四日平市役所に次の献金寄附四件があつた

◇

平第二小學校五年生塙孝子小室明子、若松綠、磯野百合子さんの四名は慰問袋一個を寄附

◇

平第一。小學校高等二年生大竹照一君外五名は二圓五十錢を卒業記念として献金

◇

磐城佑賢學舍女子部では茶話會の費用を節約七圓十二錢を陸軍恤兵部へ

◇

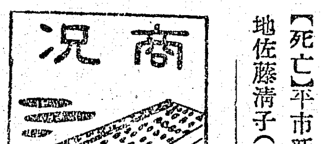
平第一小學校高等二年の一組一同は授産場の勤勞奉仕をして得た報酬金一圓四十錢をそつくり市助成會へ

平市慶弔錄

【出生】△本籍平市南町二十六番地現住所茨城縣日立市助川原野寅吉長女敬子さん△本籍平市鍛冶町四番地現住所小名濱町定西吉田壽四男誠さん△本籍平市中平窪字古館八番地現住所東京市城東區松本操五男慶一さん△本籍平市仲間町六十九番地現住所東京市板橋區赤津榮次四男俊明さん△本籍平市田町四十五番地現住所山形縣酒田市小川淸茂二男康夫さん△本籍平市正內町拾四番地現住所新京特別市風間覺雄二男雄次さん△平市紺屋町五十九番地水野市郎長女壽美子さん△平市上川原九十四番地上村勇三男昭義さん△本籍平市古鍛冶町十三番地寄留地東京市澁谷區坂本正美長女和子さん

【婚姻】茨城縣眞壁郡上野村赤城藤一郎（七二）さんと平市平窪字眞似井九番地根本ツチ（六三）

【死亡】平市新川町三十一番地佐藤淸子（一九）



（二十六日）

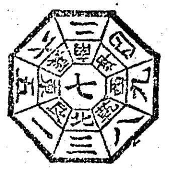
	高	安
【野菜】		
葱	一八	一五
人參	二五	二〇
油菜	一二	一〇
ホーレン草	四〇	三五
大根	一三	一〇
牛蒡	四五	四〇
【鮮魚】		
タラ		一一、〇〇
ニクモチ		三〇、〇〇
アンコ		一〇、〇〇
ノドグロ		二六、〇〇
眞蛸		二八、八
鮃		五四、〇〇
マツカハ		一二、〇〇
ドンコ		一三、〇〇
ナメタ		一二、二

今週の映畫

世界館　◎新興作品…大谷日出夫、嵐寛童主演「牛若丸」◎新興東京作品…浪曲映畫、春日井梅鶯口演加賀邦男、小柴幹治、藤代美代、姫路みさ共演「裸一貫」◎文化映畫「有田燒」◎日本ニュース

平館　◎日活特作マキノ正博監督、片岡千惠藏、河部五郎主演「織田信長」◎文化映畫「音感」◎日本ニュース、海外ニュース◎松竹作品田中絹代、上原謙主演「お絹と番頭」

聚樂館　◎パ社音樂映畫オラムプ・ブラドナ主演「乙女の曲」◎東寶映畫渡邊邦男監督、長谷川一夫、李香蘭主演「熱砂の誓ひ」◎日本ニュース



舊二月三十日

木曜　甲戌　先勝　危　角宿

新三月二十七日

▲一白　自已の短所を去り長所を發揮するに努めよ

▲二黑　去就度を守れば業務は漸次に進展すべき日

▲三碧　運氣引立たず無理をすれば損ありて益なし

▲四綠　成功は努力の結果とは言へ逆運を無視すな

▲五黃　强情我慢は身を傷ふべく温和を旨とすべし

▲六白　良運に任せて輕率に陷るな着實に進むべし

▲七赤　過大の望みを起して苦境に陷る勿れ定業吉

▲八白　幸福に見ゆれ共實際は利得少なく不安の日

▲九紫　目先の利慾に耽らず永遠の計を立つべき日

天氣豫報

今晩　南の風晴れ勝ちです

明日　南の風晴から後曇り

（二十七日）

滿潮　前四、一五　後四、一五

干潮　前一〇、二〇　後一〇、三五

電話

高價に買ひたし

（姓名在社）

砂利小賣

販賣

◎長橋町三十番地へ貯藏所を設けました。容れ物御持參下されば小量でもお賣り致します、

◎五合以上の御注文は特に運搬も致します

神谷砂利店

平市白銀町　電話六六五番

創立總會公告

平商業組合創立總會ヲ左記ノ通リ開催致候間同意者各位ハ萬障御繰合御出席相成度此段及公告候也

記

一、日時　昭和十六年四月一日午后一時

一、場所　平市公會堂

一、協議事項　創立ニ關スル諸事項

追而一缺席ノ場合ハ必ズ委任狀御提出被下度候

昭和十六年三月十五日

平商業組合設立發起人

總代　山崎與三郎

同意者各位殿

田毎の

みつ豆

田町　電六三三